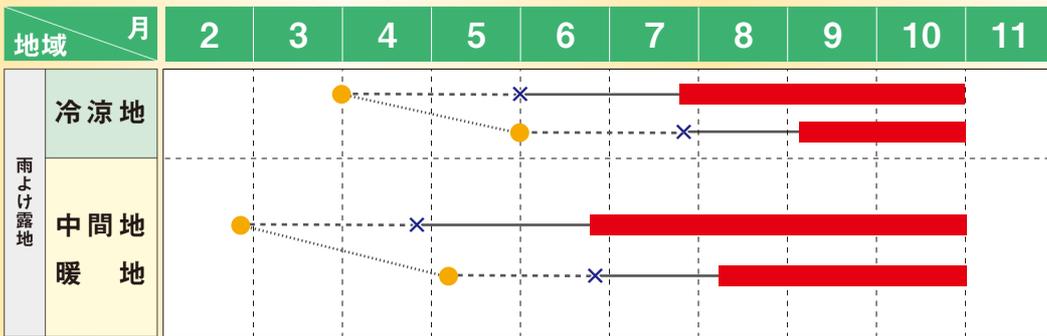


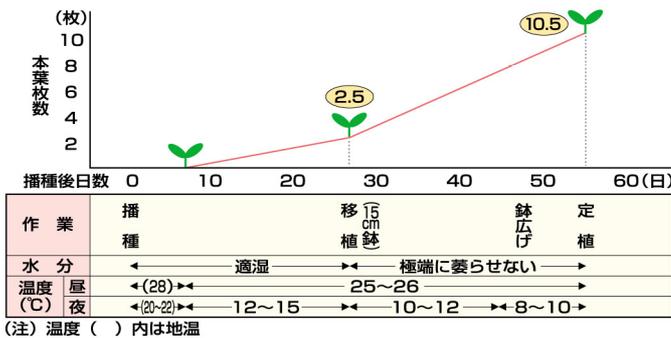
タキイのトマト栽培マニュアル



適期表記号説明

- : タネまき
- : 育苗期
- × : 定植
- : 生育期
- : 収穫期
- : 適宜播種可能

トマトの育苗管理



鉢上げ

販売されている苗は、9cmポット（本葉5～6枚）の若苗が多いので、12～15cmポットに鉢上げて第1花房の花が咲くまで育苗するとよいでしょう。そのまま定植すると、樹勢が強くなり着果や果形が悪くなる場合があります。9cmポットを直接定植の場合、元肥は1/2～2/3にします。



9cmポットの若苗



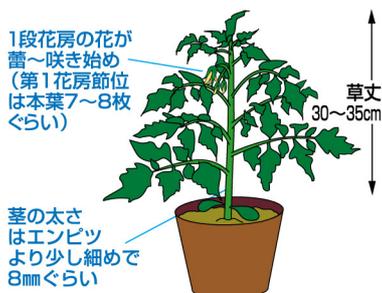
購入苗を鉢上げし、定植適期苗に育てる

12～15cmポットに鉢上げし、定植適期まで育苗する

購入苗は9cmポットが多い

トマトの定植適期苗

一番花が咲き始めたところが定植適期です。若苗だと吸肥力が強くなり、樹が倒れて落花や石灰欠乏症につながりやすく、老化苗だと樹が弱くなり後半、果実の肥大が悪くなります。

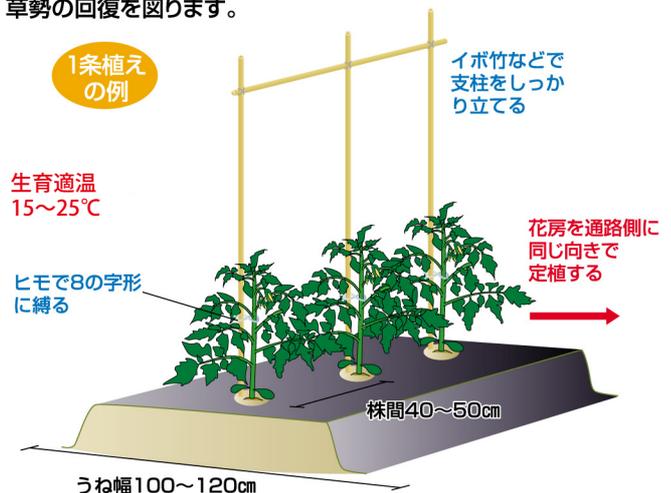


定植適期苗の姿

トマトの定植

定植時期の目安は、晩霜の心配がなく最低気温10℃以上、最低地温15℃以上になったところです。一般地の露地栽培では5月上中旬ごろ、トンネル栽培では4月中下旬ごろになります。老化苗定植や植え傷みで活着不良になった場合は、薄めの液肥を数回あたえて、草勢の回復を図ります。

1条植えの例



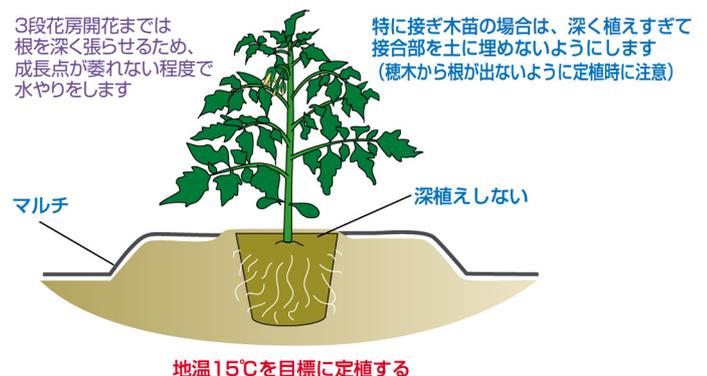
生育適温 15～25℃

施肥量

元肥の量は目安として10㎡当たり成分量で、チッソ100～150g、リン酸150～200g、カリ100～150gを施用します。毎年、草勢の強い畑や尻腐れ果が出るような所では、元肥の量を減らし、初期の生育を抑えるようにします。

定植のポイント

活着の良否がその後の生育に大きな影響を及ぼすので、定植は晴天の午前中に行います。あらかじめ鉢に十分灌水しておき、植え穴にもあらかじめたっぷりと灌水しておきます。水分と地温を確保するためにマルチを利用すると効果が高くなります。マルチングは植え付け7～10日前までに行なって、十分に地温を確保しておくこと定植後、苗の根の伸張がよくなります。



基本的な仕立て方の例 ～「桃太郎」トマト～

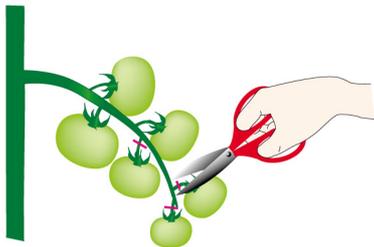
ホルモン処理

ホルモン処理で、3花開花した花房を処理し確実に着果させます。霧吹きでさつと1～2回かけ、先端の若い芽にかからないよう花房を手で覆いながら噴霧しましょう。1回散布すれば5～6果に効果が出ます。日を開けて重複処理すると、空洞果の発生を助長するので注意します。



摘果

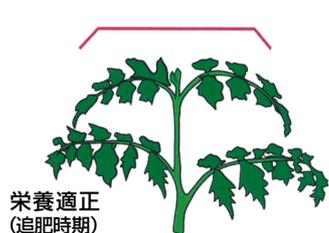
適切な栄養生長を示している場合は、果実が500円玉～ゴルフボール大の時に3果にしましょう。1・2段は3果/果房。それ以降は4果/果房が基本になります。



追肥

1回目の追肥は3段花房の開花時が目安で成長点付近の状態を見て判断します

成長点付近の本葉が内側に巻き込まなくなり、主茎が細くなりかけてきている状態のころが、追肥のタイミング。その時期が分からない場合は、試し水としてやや多めの灌水をしてみます。2日後に草勢が強くなってこなければ、急いで追肥を始める必要があります。



栄養適正
(追肥時期)

茎の太さが1～1.2cm、葉はお皿を伏せた程度の曲がり具合。葉色が濃く、毛もよく伸び、みずみずしく感じる



3段開花時期

第4花房

第3花房

茎の太さが一定(順調)太かったり、細かったりしていると途中の生育が乱れている

第2花房

3枚葉がついて花房がつく

第1花房

節間の長さも一定(高夜温、水分過多、日照不足だとやや長くなる)

気根が多く出ているときは、乾燥か根の弱りが原因

下葉は元気な方がよい

トマトは1本仕立て(整枝)が基本になります。

最終収穫段の蕾が見えたら、その上の本葉2枚を残して摘芯

摘芯



手で摘み取る

芽かき

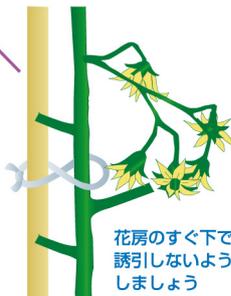
適切な栄養生長をしていれば、わき芽は小さいうちに除去するのが基本。もしも忙しくて、芽かき作業が遅れている場合は、先に果房直下の旺盛な側枝を除去します。その後、ほかのわき芽を取るようになります。



必ず晴天時に行う

5cmぐらいまでに取る

誘引

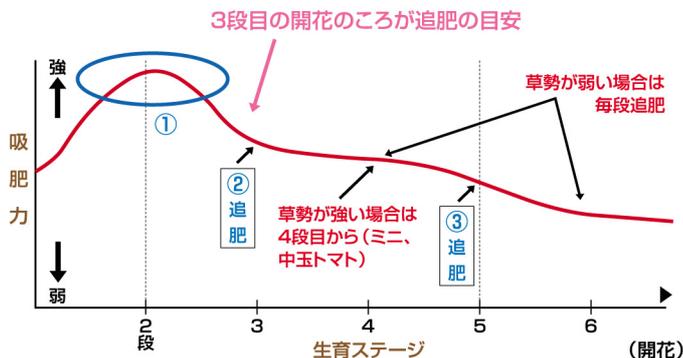


花房のすぐ下では誘引しないようにしましょう

草勢管理

少し草勢が強くなりすぎたら「ヨーゲンスロー」を、逆に弱い場合は「ヨーゲンアクセル」を葉面散布すれば、草勢のコントロールが可能です。また、葉面散布することで葉がかたくなり、葉の萎れ症状を防ぐことができます。また尻腐れ果を防止するため「カルシウムエキス」を定期的に散布するとよいでしょう。

生育するとだんだん茎が太くなるので、「8の字」に縛り、ゆとりをもたせておく



- ① 定植して2～3段開花までは、吸肥力が一番強い時期なので、定植後は灌水を控えめにします。
- ② 夏秋栽培では3段開花のころ、ミニ、中玉はもともと草勢が強くて4段開花期ころに吸肥力が低下してくるので、株の根元から、約30cm離れた所に、深さ約15cmの穴をあけ化成肥料をチッソ成分で10㎡当たり20～30gを追肥する。液肥の場合、チッソ成分量で10g/10㎡、灌水量は1ℓ/1株程度を各段開花期に施します。
- ③ 夏秋栽培では5段開花期に再度草勢が弱くなるので、2回目の追肥をします。